

学 位 論 文 要 旨	
氏 名	シリカンヤ チュンタナウオン
題 目	ハオコゼ科ナガハチオコゼ属魚類および近縁属の分類学的研究 [Systematics of the waspfish genus <i>Neocentropogon</i> Matsubara, 1943 and related genera (Teleostei: Tetrarogidae)]
<p>ハオコゼ科魚類 Tetrarogidae は体が側扁すること、頭部に棘をもつこと、涙骨が可動すること、鰓膜が峡部と広くはつながらないこと、胸鰭下方の鰭条が遊離しないことによって特徴づけられる。本科魚類の分類学的再検討を行った結果、ツマジロオコゼ属 <i>Ablabys</i> Kaup 1873, <i>Centropogon</i> Günther 1860, <i>Coccotropsis</i> Barnard 1927, <i>Cottapistus</i> Bleeker 1876a, <i>Glyptauchen</i> Günther 1860, <i>Gymnapistes</i> Swainson 1839, <i>Liocranium</i> Ogilby 1903, ナガハチオコゼ属 <i>Neocentropogon</i> Matsubara 1943, <i>Neovespicula</i> Mandrytsa 2001, <i>Notesthes</i> Ogilby 1903, ハチオコゼ属 <i>Ocosia</i> Jordan and Starks 1904, ハオコゼ属 <i>Paracentropogon</i> Bleeker 1876b, <i>Pseudovespicula</i> Mandrytsa 2001, <i>Richardsonichthys</i> Smith 1958, ヤマヒメ属 <i>Snyderina</i> Jordan and Starks 1901, アゴヒゲオコゼ属 <i>Tetraroge</i> Günther 1860, および <i>Trichosomus</i> Swainson 1839 の 17 属に 45 有効種が確認された。 <i>Trichosomus</i> (タイプ種: <i>Apistus trachinoides</i> Cuvier 1829) と <i>Vespacula</i> (タイプ種: <i>Prosopodasys gogorzae</i> Jordan and Seale 1905) は、これまでそれぞれ有効属として扱われていたが、 <i>P. gogorzae</i> が <i>T. trachinoides</i> の新参異名であることが確認されたため、 <i>Vespacula</i> も同様に <i>Trichosomus</i> の新参異名となることが分かった。また、本研究ではオーストラリアと西太平洋からツマジロオコゼ属の 2 新種を記載した。さらに、ハチオコゼ属とヤマヒメ属の 2 未記載種がそれぞれオーストラリアとフィリピンから確認された。</p> <p>本研究で認められたハオコゼ科 17 属の内、ナガハチオコゼ属について分類学的再検討を行った。その結果、ナガハチオコゼ属は体が埋没した円鱗でまばらに覆われること、口蓋歯があること、背鰭棘数が 13–16 であること、背鰭起部が眼上方に位置すること、腹鰭軟条数が 5 であること、胸鰭下方 4 軟条の鰭膜が深く切れ込むことによって特徴づけられ、 <i>Neocentropogon aeglefinus</i> (Weber 1913), <i>Neocentropogon affinis</i> (Lloyd 1909a), ナガハチオコゼ <i>Neocentropogon japonicus</i> Matsubara 1943, <i>Neocentropogon mesedai</i> Klausewitz 1985, <i>Neocentropogon profundus</i> (Smith 1958), およびヒレナガハチオコゼ <i>Neocentropogon trimaculatus</i> Chan 1966 の 6 種が本属に含まれることが明らかになった。ヒレナガハチオコゼ <i>N. trimaculatus</i> は反赤道分布 (東アジアとオーストラリアに分布) を示し、体に 3 黒色斑があることで同属他種 (黒斑がないまたは 1 黒色斑がある) から識別される。 <i>Neocentropogon affinis</i> (東インド洋) と <i>N. aeglefinus</i> (フィリピンからオーストラリア) は鰓蓋後方に 1 黒色斑があることで同属他種 (黒色斑がない) から識別され、前者は体側上方と胸鰭および尾鰭に複数の黒色点列があること (後者ではない)、縦列鱗数が 79–96 であること (94–137) から識別される。 <i>Neocentropogon mesedai</i> (紅海) は <i>N. profundus</i> (南西インド洋) とナガハチオコゼ <i>N. japonicus</i> (北西太平洋) と比較して、胸鰭下方 4 軟条が伸長すること、背鰭棘数が 13 であること (<i>N. profundus</i> と <i>N. japonicus</i> では 14–16) から識別される。後者の 2 種は下顎縫合部の突起 (<i>N. profundus</i> では不明瞭であるのに対して、 <i>N. japonicus</i> では伸長する)、体の黒色点 (<i>N. japonicus</i> では黒色点を欠く)、および臀鰭軟条数 (<i>N. profundus</i> では 5 であることに對して、 <i>N. japonicus</i> では 6 または 7) によって識別される。本研究ではナガハチオコゼ属の全種とハオコゼ科に含まれる各属の検索表をそれぞれ示した。</p>	